

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	看護学分野
学籍番号		院生氏名	三輪 聖恵
通学キャンパス			
論文題目	新卒看護師の組織社会化尺度の開発		
審査結果 (枠で囲む)	<input checked="" type="checkbox"/> 合格	<input type="checkbox"/> 不合格	
<p><審査結果の要旨></p> <p>1. 主論文について。</p> <p>1) 研究の概要</p> <p>看護学領域での看護師の離職に関する研究は、否定的感情(不適応・バーンアウト・ストレス・離職意向など)に関する尺度として進められてきたのが通常であった。それらの研究は「職場適応」という言葉が使われていたが、離職に対する本人の意向だけでなく、組織への適応ということで、様々な側面を含む「組織社会化」をキーワードとして自分自身の置かれている立場を考える必要がある。しかもそれらはキャリア発達の意味も含むものとして捉える、との考えから、研究の目的は、新卒看護師の組織社会化の促進を意図し新卒看護師の組織社会化を自己評価する尺度を開発することとした。</p> <p>国内外の先行文献から「組織社会化」の概念分析を行い、その後、インタビューによる調査結果を併用し、「新卒看護師の組織社会化尺度の仮説モデル」を作成した。さらに、仮説モデル尺度の信頼性と妥当性の検証過程(基準関連妥当性、構成概念妥当性、信頼性)を経て、24項目、3因子構造(「組織の一員として協調する」、「組織の一員として望ましい態度」、「自立して看護業務を遂行する」)から成る尺度構築がなされた。評価尺度を可視化することで、自己評価尺度となり得る可能性があり、看護師としてのキャリアを歩み始めた看護師自身の能力を発揮できる支援対策や、集団特性に合わせた施策を考える一助になると考える。</p> <p>2) 研究方法</p> <p>国内外の先行文献を用い、Walker & Avant の概念分析の手法を用いて「組織社会化」の概念分析、併せて質的研究(インタビュー)の調査結果を併用し、新卒看護師の組織社会化尺度の仮説モデル形成。次いで、新卒看護師 434名のデータを用い、新卒看護師の組織社会化尺度原案 33項目の信頼性と妥当性の検証過程を経て、結果的には24項目の3因子構造尺度構築となった。概念形成～質的研究～量的研究と計画した研究のプロセスを丁寧に記述している。</p> <p>研究はすべて、国際医療福祉大学倫理審査委員会による審査にて承認を得て行っている(19-Ig-14、20-Ig-100、20-Ig-100-2、20-Ig-100-3)。</p> <p>3) 研究の新規性について</p> <p>本研究は、これまで経営学や社会学領域で研究が積み重ねられてきた「組織社会化」という概念を看護学領域に導入し、「新卒看護師の組織社会化」を定義し、新卒看護師の組織社会化の特徴を明らかにし、自己評価尺度形成をしたことは、学際的であり独創的である。これまで新卒看護師の組織社会化についての先行研究は少ないが、質的研究も加え、新卒看護師の組織社会化の特徴を明らかにしたことは本研究の新規性と評価する。</p> <p>2. 審査経過および口頭試問の結果について</p> <p>対面での初回審査を含め3回の審査を行った。結果、論文の修正要求および口頭試問に対し、適切に対応していたことを認めた。以上の結果から、審査員全員が本論文は著者に博士(看護学)の学位を授与することに価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主査	遠藤 英子	
	副査	石川 ベンジャミン 光一	
	副査	坂木 晴世	